

課題名：地域課題解決に高校生等が参画することによるシビックプライドの醸成と教育的効果
研究代表者：高等教育推進センター 准教授 渡部 芳栄
課題提案者：盛岡市
研究メンバー：天野 哲彦・高瀬 和実（以上、高等教育推進センター），中嶋 孝樹・吉田 央・阿部 牧子・佐藤 俊治・小嶋 康之（以上、盛岡市）
技術キーワード：シビックプライド，行政，地域，連携・協働

▼研究の概要

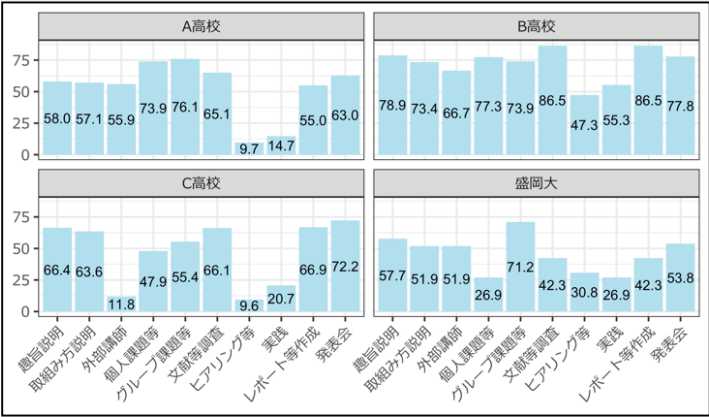
盛岡市で実施している「盛岡まるごと学びの場プロジェクト」（以下、学びプロ）等を効果的・継続的に活用していくため、学びプロ等の取組とその活用による、高校生・学生のシビックプライド育成への影響と今後の課題を考察することを目指した。

▼研究の内容

令和4年度に実施した学びプロ参加校のうち3高校（A高校・B高校・C高校）と、大学で行政と協働して地域課題解決型授業を実践した盛岡大学（以下、盛岡大）に対して学びプロ実施前と実施後の2回のアンケートを実施し、分析を行った。

▼分析の結果

- 1) テーマについて
- ・医療・子育て・支援・充実・高齢などの都市計画・政策をテーマとするパターンや、海洋・ゴミ・活性・音楽、人・関係・睡眠・心理などといった自分の関心のあるテーマとするパターンの違いがあった。
- 2) 取組の方法について（右図）
- ・B高校において相対的にどの取組も割合が高かった。
 - ・学校によっては「外部人材等へのヒアリング・フィールドワーク」「課題解決のための実践活動」や、インプットに関わる取組（「学校による趣旨説明」・「学校による取組み方の説明」・「外部講師による講話・話題提供」）なども低かった。実施しているのにこの割合が低いということは、記憶に残らない生徒・学生が多かったということであり、主体的に学べていない証左かもしれない。
- 3) 居住希望の変化について（右表）
- ・3つの高校では「盛岡地域」「盛岡地域だが他所も」の割合が低下する結果となった。
 - ・盛岡大のみ「盛岡地域」が上昇した。



▼考察と今後の課題

- ・テーマ設定について、自分の興味関心で決めたかどうか、成果に影響を与えている可能性がある。
- ・この授業の趣旨や取組み方の説明が十分でない可能性がある学校もあったが、全体を見通したり進捗を管理する力をつけるという意味では今後の改善が期待される。
- ・アウトプット作業についても同様に、身につけた知識・技術、資質・能力を定着させるにはやりっぱなしにしないのも大事である。
- ・居住希望の変化を見ると、地域課題を調べたり解決のための実践を行う中で、無批判に「好き」という気持ちが薄れたり、それゆえ、他の地域への関心が相対的に上昇したという可能性もある。
- ・地域の方々との調整、全体の適切な進捗管理が行われることが求められる。そうした機能を誰がどのように担うかについて、今後検討していく必要があるだろう。